

立命館經濟學

第十四卷 第二号

昭和四十年六月

内 容

論 説

- 国家独占資本主義の研究手法……………手 島 正 毅 1
県外からの勤勞所得による県民所得統計の補正……………関 弥 三 郎 41

紹 介

- ツェゴロフ編『政治経済学教程，第二卷，社会主義』
とソ連邦における社会主義政治経済学の体系をめ
ぐる論争……………小 野 一 郎 65

書 評

- 梅津和郎著『現代国際経済理論』……………建 林 正 喜 95
学界動向 共同研究室 109

立 命 館 大 学 經 済 学 会

立命館経済学 第十三巻・第六号

論説

不安定性原理について……………建林正喜

「地域開発」論序説……………浜崎正規

——いわゆる「社会開発」問題との関連で——

A・スミス、J・S・ミルにおける

国家経費に関する理論の展開Ⅱ……………箕浦格良

——古典学派における財政思想内——

資料

管大同『中国における資本主義商

工業の社会主義改造』……………武藤守一

——第八章「マルクス・レーニン主義の普遍的真理

と中国革命の具体的実践との結合の勝利」——

書評

梯明秀著『経済哲学原理』……………山中隆次

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学 第十四巻・第一号

論説

民権運動研究の課題と方法……………後藤靖

A・スミス、J・S・ミルにおける

国家経費に関する理論の展開Ⅲ……………箕浦格良

——古典学派における財政思想(七)

社会主義経済学の生成と発展(承前)木原正雄

——「労働支出の法則」について——

資料

イタリア経済の動向……………足立政男

書評

関弥三郎著『社会統計学』……………有田正三

学界動向 共同研究室

発行所 立命館大学人文科学研究所